

(別紙-3)

設計図書等（参考資料を含む）の質問に対する回答書

No.1

平成17年 9月16日			
諫早土木事務所長 所 長 川原 孝 印			
下記工事（委託業務を含む）に対する質問について、回答いたします。 記			
工事番号	17都街地特 第 1-3 号	入札予定年月日	平成17年 9月27日
工 事 名	破籠井鷺崎線立体交差工事		
工事箇所	諫早市 幸町 地内		
(参考資料)			
Q1. 第21, 25～26号代価表に関連する「入力条件一覧表（鋼矢板Ⅳ型）」について			
・⑥杭径杭長別10本当り施工日数は大枠で囲われた最大N値25を超え50以下をすべての代価表で採用されていると判断してよろしいのでしょうか。違うものがあれば代価表番号の公表をお願いします。			
また、Ⅱ-5-④-2の「本/日」を「日/10本」に換算する場合、少数第何位を四捨五入もしくは切り捨てて第何位止めとしていますか。			
・諸雑費の決定条件である「岩塊・玉石・軟岩(Ⅱ)を2m以上施工する場合。」に該当するのかわからないのかを代価表番号別に公表をお願いします。			
A1. 第21, 25～26号代価表は大枠で囲われた最大N値25を超え50以下をすべての代価表で採用しています。また、「本/日」を「日/10本」に換算する場合、少数第2位を四捨五入して、少数第1位止めとしています。			
諸雑費の決定条件は、9/15付け質問に対する回答書で添付している仮設工数量表を参照してください。			
機 関 名	諫早土木事務所	担当課(室)名	都市計画課

Q2. 第27～32号代価表に関する「入力条件一覧表」について
・⑥杭径杭長別10本当り施工日数の大枠で囲われた最大N値25を超え50以下かつ圧入長値13を超え16以下は圧入長が第30～32号代価表にあてはまりませんが係数は太枠通りですか、それとも圧入長別に計算しているのですか。
・諸雑費の決定条件である「岩塊・玉石・軟岩(Ⅱ)を2m以上施工する場合。」に該当するのかわからないのかを代価表番号別に公表をお願いします。
A2. すべて最大N値25を超え50以下で圧入長別に計算してください。ただし、17ブロックについては掘削長土(N<20)3.9m,土(N≥20)2.6m,軟岩12.0m 計18.5m 圧入長は13を超え16以下で積算してください。
諸雑費の決定条件は、9/15付け質問に対する回答書で添付している仮設工数量表を参照してください。なお、決定条件は「岩塊,玉石,軟岩(Ⅰ)・(Ⅱ)を連続して2m以上施工する場合」に適用するとなっています。
Q3. 第03号明細書「仮設工(土留め工)」について
・山留材賃料の数量87.801t(第105号代価表)、5.137t(第106号代価表)の数量が図面番号90号のW14・W15ブロック鋼材表の数量82.993tと合わないの で数量の内訳の公表をお願いします。
A3. 山留材賃料87.801t、5.137tで積算してください。数量の内訳は別添ブロック鋼材表を参照してください。

補足資料「14, 15, 17～22ブロック鋼材賃料期間」表について
Q4. それぞれの鋼材の賃料期間を公表して頂けないでしょうか。算定表で公表していただく場合は各工種の小数点以下の取扱い、想定班数、打込（設置）期間、在場期間、休日補正、引抜（撤去）期間の計算方法も合わせて公表をお願いします。
A4. 中間杭337日、鋼矢板AⅣ型450日、鋼矢板BⅣ型及び鋼矢板AⅢ型387日、腹起・切梁・火打ち248日（盛替梁含む）、14～15ブロックの腹起・切梁・火打ちの残置分370日で計上しています。
Q5. 数量欄にはすべてのブロックの工種別総数が記載されていますが、すべてのブロックの工期を算定した合計から賃料期間を計算するのですか。それとも14～15ブロックと17～22ブロックは分けて計算されていますか。
それ以外であればブロック別の計算方法の公表をお願いします。
A5. ブロックを分けて計算せず一連の工事として全ブロックまとめて計算しています。
Q6. 在場期間には休日補正をされていますか。されていない場合は契約変更の対象となりますか。埋戻は在場期間として計算されていますか。その場合、休日補正も考慮されていますか。
A6. 賃料計算に係る全作業を休日補正しています。また、埋戻も在場期間として計算しております。
Q7. 第03号明細書「仮設工（土留め工）」のアンカー工に計上されている山留材賃料に関する資料がありませんので供用日数を公表してください。算定表で回答していただく場合は各工種の小数点以下の取扱い、打込期間、休日補正を含む在場期間、撤去期間の計算方法の公表も併せてお願いします。
A7. 450日計上しています。

W14, W15 ブロック鋼材表

名称	寸法	長さ (cm)	単位重量 (kg)	本数	重量 (kg)	摘要
鋼矢板	Ⅳ型	19.000	76.1	83	120 010	SY295
"	"	18.500	"	65	91 510	"
"	"	18.000	"	71	97 255	"
308 775 ^{kg}						
版起し	H-400x400x13x21	15.600	200	1	3 120	リース材
"	"	14.450	"	1	2 890	"
"	H-350x350x12x19	22.100	150	3	9 945	"
"	"	19.330	"	3	8 699	"
"	"	16.140	"	3	7 263	"
"	"	15.600	"	2	4 680	"
"	"	14.450	"	2	4 335	"
30 887 40 932 ^{kg}						
切梁	H-350x350x12x19	20.760	150	3	9 342	リース材
"	"	20.700	"	1	3 105	"
"	"	20.600	"	1	3 090	"
"	"	20.510	"	1	3 077	"
"	"	20.450	"	1	3 068	"
"	"	20.410	"	1	3 062	"
"	"	20.310	"	1	3 047	"
"	H-300x300x10x15	20.760	100	6	12 456	"
"	"	20.700	"	1	2 070	"
"	"	20.550	"	1	2 055	"
"	"	20.410	"	1	2 041	"
46 413 ^{kg}						
火打ち	H-300x300x10x15	2.850	100	3	855	リース材
"	"	0.680	"	3	204	"
"	"	0.670	"	3	201	"
"	"	0.660	"	24	1 584	"
"	"	0.650	"	6	390	"
"	"	0.640	"	3	192	"
"	"	0.630	"	15	945	"
"	"	0.610	"	9	549	"
"	"	0.580	"	3	174	"
"	"	0.560	"	6	336	"
"	"	0.540	"	3	162	"
5 592 ^{kg}						
主部材合計 87 912 92 957 ^{kg}						
中筒杭	H-300x300x10x15	13.500	93	12	15 066	生材
副部材 (A)	92 937 x 22.0%				= 18 258	
副部材 (B)	92 937 x 4.0%				= 3 717	
81 997 3320						
428 412						
総重量 440 944 ^{kg}						
現場隅肉溶接	0.500x219箇所 = 109.5m					サイズ6mm

*切梁は、キリンジャッキ長0.5mを控除した長さとする。
*火打ちは、火打ち受ピース0.5m×2を控除した長さとする。

仮設工数量表 (その3)

14.15ブロック

工 種		仕 様	単 位	数 量	摘 要
主	腹起し	H-400 × 400 × 13 × 21	kg	6,010	SS400(リース)
	残置		"	—	"
部	腹起し	H-350 × 350 × 12 × 19	"	20,864	"
	残置		"	4,113	"
材	切 梁	H-350 × 350 × 12 × 19	"	27,791	"
	残置		"	—	"
材	火打ち	H-300 × 300 × 10 × 15	"	18,622	"
	残置		"	—	"
材	火打ち	H-300 × 300 × 10 × 15	"	4,569	"
	残置		"	1,023	"
合 計			"	82,992	"
副部材 (A)		主部材 × 22%	"	18,258	
副部材 (B)		主部材 × 4%	"	3,320	